

大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F117110105393	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	金沢大学	設置区分	国立	事業計画名	高度情報専門人材養成の拡大を実現するエコシステム金沢大学モデル－情報分野の産業人材や教員・研究者の需要に応える体制の確立－
学校種	大学	都道府県	石川県		

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【情報系組織の入学定員】 <博士> 0 人、<修士> 6 3 人、<学士> 1 2 3 人 自然科学研究科電子情報通信学専攻（博士前期課程） 入学定員 6 3 名 融合学域スマート創成科学類 入学定員 4 0 名、編入学定員 2 0 名 理工学域電子情報通信学類 入学定員 8 3 名、編入学定員 7 名 6 月 融合学域スマート創成科学類及び理工学域電子情報通信学類収容定員に係る計画申請予定 3 月 融合学域スマート創成科学類に接続する専攻（博士前期課程）（新学術創成研究科に設置予定）設置認可申請予定 ※ただし、スマート創成科学類の卒業者が接続するのは令和9年度から	【情報系組織の入学定員】 収容定員変更及び大学院設置に係る設置計画書を提出し、令和 6 年度の入学定員変更に向けた手続きを着実に履行した。 【令和 6 年度の入学定員】 自然科学研究科電子情報通信学専攻（博士前期課程） 入学定員 6 3 名 融合学域スマート創成科学類 入学定員 5 5 名、編入学定員 2 0 名 理工学域電子情報通信学類 入学定員 1 1 6 名、編入学定員 7 名 6 月 融合学域スマート創成科学類及び理工学域電子情報通信学類収容定員に係る計画申請 3 月 融合学域スマート創成科学類に接続する専攻（博士前期課程）（新学術創成研究科に設置予定）設置認可申請	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	①教育体制を整備するため、教員公募・授業担当依頼を実施する。 ②また、セキュリティ強化をはじめとした情報通信環境基盤整備を行うとともに、講義室、演習室等を備えた新棟建設に向けた地盤調査を行う等、定員増に向けた環境整備を中心に進める。 ③石川工業高等専門学校からの編入学促進に向け、受け入れ体制を整備する。 ④加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携体制の構築に向け、関係機関での協議を進める。	①10月に1名の教員公募を開始した。また、入学定員増員後の入学者数を考慮の上、授業計画を策定し、授業担当依頼を行った。スマート創成科学類を含む融合学域 3 学類に接続する大学院は、高度情報専門基盤特別プログラムを設けた教育課程として設置申請をした。 ②講義室・演習室を備えた新棟建設に向け、9 月に測量調査、11月に地盤調査を行う等、環境整備を行った。 ③編入学促進に向けて、教育の体制、学生の身分、入学前教育、入学定員、入試方法、学費等について、事業採択以降継続的に石川工業高等専門学校と協議を行った。また、石川工業高等専門学校で 1 月に金沢大学編入学の説明会を行い、合計で約 50 名が参加した。 ④石川県内の高等教育機関との連携体制の構築に向け、連携の在り方及び必要となる体制について、事業採択以降継続的に石川工業高等専門学校と協議を行った。		
令和6年度	<博士> 0 人、<修士> 6 3 人、<学士> 1 9 8 人 4 月 融合学域スマート創成科学類 3 5 名増員（入学定員 5 5 名、編入学定員 2 0 名） 4 月 理工学域電子情報通信学類 4 0 名増員（入学定員 1 1 6 名、編入学定員 7 名）	自然科学研究科電子情報通信学専攻（博士前期課程） 入学定員 6 3 名 融合学域スマート創成科学類 入学定員 5 5 名、編入学定員 2 0 名 理工学域電子情報通信学類 入学定員 1 1 6 名、編入学定員 7 名	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	①教員を増員配置し、拡大した学士課程 2 学類での教育を開始する。 ②教育体制を整備するため、セキュリティ強化や実験用機器の増設をはじめとした情報通信環境基盤整備を行うとともに、講義室、演習室等を備えた新棟建設に向けた設計を行い、その後、建設工事にも着手し、定員増後の環境整備を引き続き進める。 ③加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携により、教育プログラムの開発、学生の相互交流、教材作成、教員循環に向けた取組を検討し、順次、その取組を開始する。	①スマート創成科学類で 1 名（令和 6 年 10 月採用）、電子情報通信学類で 1 名（令和 6 年 10 月採用）の教員を増員配置し、拡大した学士課程 2 学類での教育を開始した。 ②セキュリティ強化や実験用機器を増設し、情報通信環境基盤整備を行うとともに、講義室、演習室等を備えた新棟建設に向けた設計を行った。その後、令和 6 年 12 月に建設工事を着工した。 ③石川工業高等専門学校と連携教育プログラムの実施に関する協定を令和 7 年 1 月に締結し、令和 7 年度に「高等専門学校専攻科との連携教育プログラム特別選抜」を実施することとなった。また、富山高専専門学校専攻科と推薦入学に関する協定を令和 6 年 11 月に締結した。これに加え、石川工業高等専門学校専攻科と福井工業高等専門学校専攻科と既に締結している推薦入学に関する協定について受入学生数の撤廃を行い、協定内容の統一と連携強化を図った。更に、優秀な高専生の編入学促進に向け、電子情報通信学類の編入学特別選抜として高専推薦枠を設けた。加えて、石川工業高等専門学校において、金沢大学編入学・大学院進学の説明会を令和 6 年 12 月に実施し、約 40 名の教職員・学生が参加した。北陸先端科学技術大学院大学との連携では、同大名誉教授を特任教授に迎入れたほか、令和 6 年 8 月には、共同セミナーを開催する等、協力関係の強化を図った。		

令和7年度	<博士> 0 人、<修士> 6 3 人、<学士> 1 9 8 人		R7年度自己評価	リストから選択してください。
	①教員を増員配置し、拡大した学士課程2 学類での教育を実施する。 ②教育体制を整備するため、セキュリティ強化や実験用機器の増設をはじめとした情報通信環境基盤整備を行うとともに、講義室、演習室等を備えた新棟の建設工事を完了させ、定員増後の環境整備を引き続き進める。 ③さらに、令和9 年度に設置予定のスマート創成科学類との接続による博士前期課程や、令和10年度に定員増を予定する電子情報通信学類との接続による博士前期課程におけるカリキュラムについて検討を進める。 ④加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携により、教育プログラムの開発、学生の相互交流、教材作成、教員循環に向けた取組を検討し、順次、その取組を開始する。			
令和8年度	<博士> 0 人、<修士> 6 3 人、<学士> 1 9 8 人		R8年度自己評価	リストから選択してください。
	①教員を増員配置し、拡大した学士課程2 学類での教育を実施する。 ②教育体制を整備するため、実験用機器の増設をはじめとした情報通信環境基盤整備、講義室、演習室を含めた定員増後の環境整備を引き続き進める。 ③さらに、令和9 年度に設置予定のスマート創成科学類との接続による博士前期課程や、令和10年度に定員増を予定する電子情報通信学類との接続による博士前期課程におけるカリキュラムについて検討を進める。 ④加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携により、教育プログラムの開発、学生の相互交流、教材作成、教員循環に向けた取組を検討し、順次、その取組を開始する。			
令和9年度	<博士> 0 人、<修士> 7 8 人、<学士> 1 9 8 人 4 月 融合学域スマート創成科学類に接続する専攻(博士前期課程) (新学術創成研究科に設置予定) 1 5 名増員 (スマート創成科学類の接続分入学定員1 5 名)		R9年度自己評価	リストから選択してください。
	①教員を増員配置し、拡大した学士課程2 学類での教育を実施する。 ②新たに設置したスマート創成科学類に接続する博士前期課程での教育を開始する。 ③教育体制を整備するため、実験用機器の増設をはじめとした情報通信環境基盤整備、講義室、演習室を含めた定員増後の環境整備を引き続き進める。 ④また、石川工業高等専門学校専攻科と電子情報通信学類との連携教育プログラムの開発を進める。 ⑤さらに、令和11年度に設置予定のスマート創成科学類との接続による博士後期課程のカリキュラムについて検討を進める。 ⑥加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携により、教育プログラムの開発、学生の相互交流、教材作成、教員循環に向けた取組を進める。			
令和10年度	<博士> 0 人、<修士> 1 2 1 人、<学士> 1 9 8 人 4 月 融合学域スマート創成科学類に接続する専攻(博士前期課程) (新学術創成研究科に設置予定) 1 5 名増員 (スマート創成科学類の接続分入学定員3 0 名) 4 月 自然科学研究科電子情報通信学専攻 2 8 名増員 (入学定員9 1 名)		R10年度自己評価	リストから選択してください。
	①教員を増員配置し、拡大した学士課程2 学類での教育を実施する。 ②令和9 年度に設置したスマート創成科学類に接続する博士前期課程において、さらに定員増を行うとともに、電子情報通信学類との接続による博士前期課程においても定員増を行い、それぞれ教育を開始する。 ③教育体制を整備するため、実験用機器の増設をはじめとした情報通信環境基盤整備、講義室、演習室を含めた定員増後の環境整備を引き続き進める。 ④また、石川工業高等専門学校専攻科と電子情報通信学類との連携教育プログラムの開発を進める。 ⑤さらに、令和11年度に設置予定のスマート創成科学類との接続による博士後期課程のカリキュラムについて検討を進める。 ⑥加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携により、教育プログラムの開発、学生の相互交流、教材作成、教員循環に向けた取組を進める。			

令和11年度	<博士>3人、<修士>121人、<学士>198人 融合学域スマート創成科学類に接続する専攻〔博士後期課程〕（新学術創成研究科に設置予定） 3名増員（スマート創成科学類の接続分入学定員3名）		R11年度自己評価	リストから選択してください。
	①拡大した学士課程2学類での教育を実施する。 ②新たに設置したスマート創成科学類に接続する博士後期課程での教育を開始する。 ③教育体制を整備するため、実験用機器の増設をはじめとした情報通信環境基盤整備、講義室、演習室を含めた定員増後の環境整備を引き続き進める。 ④また、石川工業高等専門学校専攻科と電子情報通信学類との連携教育プログラムの開発を進める。 ⑤加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携により、教育プログラムの開発、学生の相互交流、教材作成、教員循環に向けた取組を進める。			
令和12年度	<博士>5人、<修士>121人、<学士>203人 理工学域電子情報通信学類5名増員（入学定員116名、編入学定員12名） 融合学域スマート創成科学類に接続する専攻〔博士後期課程〕（新学術創成研究科に設置予定） 2名増員（スマート創成科学類の接続分入学定員5名）		R12年度自己評価	リストから選択してください。
	①拡大した学士課程2学類及び博士前期課程での教育を実施する。 ②令和11年度に設置したスマート創成科学類に接続する博士後期課程において、さらに定員増を行い、教育を実施する。 ③教育体制を整備するため、実験用機器の更新をはじめとした情報通信環境基盤整備を引き続き進める。 ④また、石川工業高等専門学校専攻科と電子情報通信学類との連携教育プログラムを実施し、スマート創成科学類との連携教育プログラムの開発に向けた検討を行う。 ⑤加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携により、教育プログラムの開発、学生の相互交流、教材作成、教員循環に向けた取組を検討し、順次、その取組を開始する。			
令和13年度	<博士>5人、<修士>121人、<学士>203人		R13年度自己評価	リストから選択してください。
	①拡大した学士課程2学類及び博士前期・後期課程での教育を実施する。 ②教育体制を整備するため、実験用機器の更新をはじめとした情報通信環境基盤整備を引き続き進める。 ③また、石川工業高等専門学校専攻科と電子情報通信学類との連携教育プログラムを実施し、スマート創成科学類との連携教育プログラムの開発に向けた検討を行う。 ④加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携により、教育プログラムの開発、学生の相互交流、教材作成、教員循環に向けた取組を検討し、順次、その取組を開始する。			
令和14年度	<博士>5人、<修士>121人、<学士>203人		R14年度自己評価	リストから選択してください。
	①拡大した学士課程2学類及び博士前期・後期課程での教育を実施する。 ②教育体制を整備するため、実験用機器の更新をはじめとした情報通信環境基盤整備を引き続き進める。 ③また、石川工業高等専門学校専攻科と電子情報通信学類との連携教育プログラムを実施し、スマート創成科学類との連携教育プログラムの開発に向けた検討を行う。 ④加えて、石川工業高等専門学校、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、国際高専等の近接する高等教育機関との連携により、教育プログラムの開発、学生の相互交流、教材作成、教員循環に向けた取組を検討し、順次、その取組を開始する。			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。		
	確認を受けている	☒ チェック	
	対象に該当しない	☐ チェック	
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）	
	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック

⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック

⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

⑬

文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

認定を受けている、又は対象に該当しない

☒ チェック

認定を受ける計画が進んでいる

☐ チェック

⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

①	地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。		
	申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
	金沢大学においては、新たな知と人材による価値創造と新たな資本・資源の還流の好循環による大学の強固な財政基盤の確立に向け、大学・自治体・企業単独ではなく、「大学も自治体も企業も」一体となり社会課題を解決すべく、北陸地区国立4大学と北陸経済連合会及び北陸の企業・諸団体で構成する『北陸未来共創フォーラム』を設置している。このプラットフォームを利用し、既に自治体や企業等と先行実施しているビッグデータやプログラム解析等をはじめ、自治体、企業のみならず、公私立大学・大学コンソーシアムを含めた高等教育機関との連携強化を図り、企業や自治体等が求める人材ニーズを把握しながら、その人材ニーズに応える高度情報専門人材の輩出に向けたインターンシップ科目の設定や地域企業や自治体を巻き込んだ教育プログラムの開発を行う。	【融合学域スマート創成科学類】 地元企業へのアンケートを基に、正課の単位修得を行えるリスキングプログラムをR6年度より開始しており、数理的基礎及び統計理論を学ぶ「文理融合データサイエンスプログラム」を提供している。 また、令和6年1月26日、一般社団法人石川県情報システム工業会（ISA）と融合学域は、包括連携協定を締結した。令和5年度は、連携の第一歩として今後のインターンシップにつながる交流イベントを開催し、ISA会員企業4社、学生10名が参加した。令和6年度以降は、ISA会員企業でのインターンシップ、各種交流会、社会実装を見据えた共同研究等の展開を計画している。 【理工学域電子情報通信学類】 金沢大学では、地元企業へのアンケートを基に、正課の単位取得を行えるリスキングプログラムをR6年度より開始しており、AIとIoTの基礎知識習得を支援するAI&IoTプログラムを提供している。また、石川県、金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学と連携したデジタル分野リスキング推進事業にも参画している。更に、環境エネルギー材料創成（日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所）と先進IoTシステム技術創成（三菱電機株式会社）という2つの連携講座を実施している。その他にも、北陸セキュリティフォーラム（HIRPセキュリティ人材育成分科会）に参加する金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、企業の方々と同フォーラムのセミナー、及び、人材育成プログラム『セキュリティミニキャン in 石川 2023』を開催した。2024年度の開催も計画中である。	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では、県内外の教育委員会、科学館等と連携し、小中学生を対象に、自らが科学技術に対して課題意識をもち、主体的に問題解決を行い探究する子ども育成を目的に『金沢大学ジュニアドクター育成塾』を主催。また、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材の育成を目的に、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等を対象に、国際的な活動を含む高度で体系的な学修と実践を提供する高大接続理数教育プログラム『グローバルサイエンスキャンパス』を実施。さらに、高校生等を対象に、セミナー等様々な探究的学びの機会を提供する「KUGS高大接続プログラム」を開講し、セミナー等の受講後、定められた課題を提出し、評価基準を満たした場合、「KUGS特別入試」の出願資格が取得できる制度を整備済。今後、高度情報専門人材の養成に向けて、さらなる初等中等教育段階の学校との連携強化を図るとともに、これら事業を一体的有機的に展開し、デジタル人材に関する授業や教育プログラムを開発する。	【融合学域スマート創成科学類】 『金沢大学ジュニアドクター育成塾』と『グローバルサイエンスキャンパス』を統合・発展させた『金沢大学STELLAプログラム』が令和5年度に採択されており、令和5年7月5日開催の融合学域広報・学生募集委員会で融合学域の教員も協力することが承認されている。今後は融合学域の教育を高校生へ提供することや高校生の研究指導にも参加する予定である。 更に、KUGS高大接続プログラムにおいて、Webセミナー『AI IoT時代の技術から社会へのつながり』を実施している。高度情報専門人材の養成に向け、今後も引き続き、これらの取り組みを推し進めていく。 【理工学域電子情報通信学類】 理工学域では、①石川県教育委員会、②金沢市教育委員会、③金沢子ども科学財団との共催、後援により、石川県内の小中高校生を対象とするイベント「理学の広場」（①共催）、「ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー」（②③後援）、「ものづくり教室」（②③後援）を開催している。また、『金沢大学STELLAプログラム』のシニアコースCステージ専門科目において、2テーマ『IoT入門－あらゆるモノをネットワークで制御－』、『知的プログラミング講座』について大学教員により講義及び演習が実施された。更に、KUGS高大接続プログラムにおいて、Webセミナー『AIで進化する画像処理』を実施している。高度情報専門人材の養成に向け、今後も引き続き、これらの取り組みを推し進めていく。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
◀❶融合学域・新学術創成研究科▶【学士課程】社会人及び留学生の特別選抜を実施し、融合学域独自の奨学制度を整備している。女子学生比率は36.8%と低いものの、女子学生のさらなる確保に向けて令和7年度入試から、女子枠特別入試（定員4名）を導入。【博士前期課程】【博士後期課程】「文理融合の知と最先端の科学技術を共修するグローバル人材育成プログラム」の活用や、独自奨学制度を継続拡充し、社会人、留学生の確保を目指す。◀❷理工学域・自然科学研究科▶【学士課程】令和6年度入試から、女子枠特別入試（定員3名）を導入。今後、女子枠の拡大に向け検討を行い、順次設定していく。【博士前期課程】【博士後期課程】留学生の確保に向け、DDP・コチュールを実施しているが、今後、多くの留學生が応募しやすいよう改善を図る。また、社会人の有する研究業績を前向きに評価することを通して博士後期課程を短期修了できる連携講座を設定し社会人学生の学位取得機会を増やす。	◀❶融合学域・新学術創成研究科▶ 【学士課程】 令和6年度入試を行い、次のとおりの実施状況であった。 （社会人選抜）志願者1名、合格者1名、入学者1名 （私費外国人留学生入試）志願者0名、合格者0名、入学者0名 （在外留学生推薦入試）志願者1名、合格者1名、入学者1名 融合学域独自の奨学制度については、社会人対象及び外国人留学生向けにそれぞれ整備しており、令和6年度入試では、在外留学推薦入試の合格者1名に対して適用することとした。 女子枠特別入試は、令和6年度の女子入学者数を踏まえて検討する予定である。 【博士前期課程】【博士後期課程】 総合知創出科学専攻（仮称）（博士前期課程）については、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜を設けることとして、設置申請後の令和6年3月下旬に広報を開始した。 ◀❷理工学域・自然科学研究科▶ 【学士課程】 令和6年度入試から、女子枠特別入試（定員3名）を導入した。今後、学生募集方法を検討し、広報活動を強化する。また、女子枠の拡大に向け検討を行い、募集人員の増員を行う。 【博士前期課程・博士後期課程】 留学生の確保に向け、DDP・コチュールを実施しているが、更に多くの留學生が応募しやすいプログラムへの改善並びに新しいプログラムの検討をおこなった。	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
石川工業高等専門学校において、令和7年度より電子情報工学科を除く本科4学科で高度情報専門人材を養成するコースを新設し、40名の定員増を行う予定であり、融合学域スマート創成科学類への3年次編入に向けて、先取り履修を行うなど、その接続を促す取り組みを実施する。また、本科電子情報工学科から理工学域電子情報通信学類への3年次編入に向けても、同様に先取り履修等の接続を促す取り組みを実施する。さらに、高専本科のコース新設を基点とした学年進行に伴い、当該コースの学生が専攻科に進学する令和12年度には、高度情報専門人材の養成に向け、当専攻科と本学融合学域スマート創成科学類及び理工学域電子情報通信学類の双方の強み、教育資源を活用した教育内容の高度化を図る連携教育プログラムを開始する。これにより、当連携教育プログラムを修了した学生からの金沢大学大学院への進学も促すとともに、両機関による共同研究のさらなる活性化も目指す。	編入学促進に向けて、教育の体制、学生の身分、入学前教育、入学定員、入試方法、学費等について、事業採択以降継続的に石川工業高等専門学校と協議を行った。また、石川工業高等専門学校で1月に金沢大学編入学の説明会を行い、合計で約50名が参加した。来年度も引き続き協議を続け、具体化していく。 また、融合学域においては、令和6年度からは広く全国の高校生等に本学の授業科目を履修する機会を提供するため、高校生及び高専1～3年生向けの授業科目選定等の準備を行った。なお、高専4年生以上は、通常の科目等履修生の枠組で履修可能である。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
対象に該当しない	☐ チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）	
	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	☒ チェック
⑨	機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第５期中期目標期間終了時まで他に学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	☒ チェック
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。	
	計画通りに進んでいる	☒ チェック
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	
	認定を受けている、又は対象に該当しない	☒ チェック
	認定を受ける計画が進んでいる	☐ チェック

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック
--------------------	--

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
金沢大学においては、新たな知と人材による価値創造と新たな資本・資源の還流の好循環による大学の強固な財政基盤の確立に向け、大学・自治体・企業単独ではなく、「大学も自治体も企業も」一体となり社会課題を解決すべく、北陸地区国立 4 大学と北陸経済連合会及び北陸の企業・諸団体で構成する『北陸未来共創フォーラム』を設置している。このプラットフォームを利用し、既に自治体や企業等と先行実施しているビッグデータやプログラム解析等をはじめ、自治体、企業のみならず、公私立大学・大学コンソーシアムを含めた高等教育機関との連携強化を図り、企業や自治体等が求める人材ニーズを把握しながら、その人材ニーズに応える高度情報専門人材の輩出に向けたインターンシップ科目の設定や地域企業や自治体を巻き込んだ教育プログラムの開発を行う。	【融合学域スマート創成科学類】 令和6年度より、地元企業へのアンケート結果を基に、正課の単位修得が可能ナリスキングプログラムとして「文理融合データサイエンスプログラム」を開始した。本プログラムでは、数理的基礎および統計理論の習得を通じて、地域産業におけるデータ活用や課題解決に貢献できる人材の育成を目指している。2年次開講の「アントレプレナー演習Ⅰ・Ⅱ」では、一般社団法人石川県情報システム工業会（ISA）会員企業4社と連携し、学生が企業の課題を発見・分析し、解決策を提案する実践的な教育を実施している。令和7年度以降も、ISA会員企業との連携によるインターンシップ、交流会、共同研究など、社会実装を見据えた取組を継続・拡充する計画である。また、金沢市およびISAが主催する「金沢IT部活ベンチャーズ」について、「アントレプレナー基礎Ⅰ」や「アントレプレナー演習Ⅰ」等の授業で紹介し、スマート創成科学類の1・2年生が、地域の中高生・大学生・地元企業と連携した共創プロジェクトに参画している。学生は中高生のメンターとしても活動しており、地域の次世代育成に貢献している。3年次開講の「北陸の農林水産・製造業」では、金沢大学産学連携協会の特別会員である滋谷工業株式会社、中村留精密工業株式会社、三谷産業株式会社の技術者による特別講義を実施し、地域産業の現場に即した学びを提供した。さらに、北陸インバウンド観光DX・データコンソーシアム（金沢大学を主幹とし、富山大学、福井大学、北陸三県の自治体・観光連盟等で構成）主催によるハッカソンを企画し、北陸三県の大学生等6チーム25名が参加した。地域課題の解決に向けたアイデア創出を通じて、地域連携型の実践教育を推進している。加えて、融合学域と加賀市が共同で「Open Innovation Day 2024」を開催し、学生が起業家や地域内外の企業関係者と交流する機会を提供した。これにより、起業家の経験や最新テクノロジーに触れることで、高度情報専門人材の育成に資する成果が得られた。 【理工学域電子情報通信学類】 金沢大学では、地元企業へのアンケートを基に、正課の単位取得を行えるリススキングプログラムを令和6年度より開始しており、電子情報通信学類からはAIとIoTの基礎知識習得を支援するAI&IoTプログラムを提供している。また、石川県、金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学と連携したデジタル分野リススキング推進事業にも参画しており、令和6年度にはトライアル講座として、デジタル分野リススキング講座「セキュリティ編」を実施した。更に、環境エネルギー・材料創成（日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所）と先進IoTシステム技術創成（三菱電機株式会社）という2つの連携講座を実施している。その他にも、北陸セキュリティフォーラム（ICT研究開発機能連携推進会議セキュリティ人材育成分科会）に参加する金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、企業の方々と同フォーラムのセミナー、及び、人材育成プログラム『セキュリティ・ミニキャンピング in 石川 2024 ワークショップ』を開催し、2025年度も開催を計画している。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では、県内外の教育委員会、科学館等と連携し、小中学生を対象に、自らが科学技術に対して課題意識をもち、主体的に問題解決を行い探究する子どもの育成を目的に『金沢大学ジュニアドクター育成塾』を主催。また、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材の育成を目的に、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等を対象に、国際的な活動を含む高度で体系的な学修と実践を提供する高大接続理数教育プログラム『グローバルサイエンスキャンパス』を実施。さらに、高校生等を対象に、セミナー等様々な探究的学びの機会を提供する「KUGS高大接続プログラム」を開講し、セミナー等の受講後、定められた課題を提出し、評価基準を満たした場合、「KUGS特別入試」の出願資格が取得できる制度を整備済。今後、高度情報専門人材の養成に向けて、さらなる初等中等教育段階の学校との連携強化を図るとともに、これら事業を一体的有機的に展開し、デジタル人材に関する授業や教育プログラムを開発する。	≪❶融合学域・新学術創成研究科≫ 【学士課程】 金沢大学が実施する高大接続プログラム「STELLAシニアコース」において、石川工業高等専門学校2年生を研究室に受け入れ、動物の整形外科インプラントのデザインに関する研究活動を支援している。これにより、早期からの研究マインドの醸成と専門的知識の習得を促進している。また、高校生向けのオンライン学習支援を目的とした「KUGS高大接続プログラム」では、Webセミナー『AI・IoT時代の技術から社会へのつながり』に加え、令和6年度からは『デジタル療法（Digital Therapeutics：DTx）』および『ビッグデータ・センシングデータを活用した観光研究事例』を新たに公開し、コンテンツの充実を図った。これらの取組を通じて、高度情報専門人材の育成に資する教育機会の提供を継続している。キャンパスビジットでは、高校生等の参加者がメタバース空間に再現された旧城内キャンパスを散策したり、VRゴーグルを用いた仮想現実体験を行ったりするなど、デジタル技術を活用した授業の一端に触れる機会を提供した。さらに、令和6年度には『健康づくりをライフコースで考えよう』および『スマートヘルスケアと生体情報センシング』をテーマに、スマート創成科学類の教員が県内2校の高等学校に出向き、出前講義を実施した。これにより、高校生に対してデジタル技術への関心を喚起し、デジタル分野への進路選択の一助となることを目指している。加えて、スマート創成科学類の教員は、石川県立七尾高等学校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）運営指導委員会の委員を2007年度より継続して務めており、教育活動への助言・支援を通じて、地域の科学教育の高度化に貢献している。また、金沢市およびISAが主催する「金沢IT部活ベンチャーズ」では、中学生・高校生がITを活用した課題解決に取り組む中、金沢大学の学生がメンターとして参加し、初等中等教育段階の学習支援を行っている。この取組を通じて、大学と初等中等教育との接続を図るとともに、STEM教育の早期支援にも貢献している。 ≪❷理工学域・自然科学研究科≫ 【理工学域電子情報通信学類】 理工学域では、①石川県教育委員会、②金沢市教育委員会、③金沢子ども科学財団との共催、後援により、石川県内の小中高高校生を対象とするイベント「理学の広場」（①共催）、「ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー」（②③後援）、「ものづくり教室」（②③後援）を開催している。また、グローバルサイエンスキャンパスの発展形であるSTELLAプログラムのシニアコースCステージ専門科目において、2テーマ「IoT入門～あらゆるモノをネットワークで制御～」、「『知的プログラミング講座』について大学教員により講義及び演習が実施された。更に、KUGS高大接続プログラムにおいて、Webセミナー『AIで進化する画像処理』を実施している。高度情報専門人材の養成へとつながるように、これらの取り組みを推し進めていく。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
≪❶融合学域・新学術創成研究科≫【学士課程】社会人及び留学生の特別選抜を実施し、融合学域独自の奨学制度を整備している。女子学生比率は36.8%と低いものの、女子学生のさらなる確保に向けて令和7年度入試から、女子枠特別入試（定員4名）を導入。【博士前期課程】【博士後期課程】「文理融合の知と最先端の科学技術を共修するグローバル人材育成プログラム」の活用や、独自奨学制度を継続拡充し、社会人、留学生の確保を目指す。≪❷理工学域・自然科学研究科≫【学士課程】令和6年度入試から、女子枠特別入試（定員3名）を導入。今後、女子枠の拡大に向け検討を行い、順次設定していく。【博士前期課程】【博士後期課程】留学生の確保に向け、DDP・コチュテルを実施しているが、今後、多くの留学生在が応募しやすいくなるよう改善を図る。また、社会人の有する研究業績を前向きに評価することを通して博士後期課程を短期修了できる連携講座を設定し社会人学生の学位取得機会を増やす。	≪❶融合学域・新学術創成研究科≫ 【学士課程】 融合学域では、社会人および外国人留学生を対象とした独自の奨学制度を整備しており、令和7年度入試においては、在外留学推薦入試の合格者3名（令和7年度入学）に対して本制度を適用した。女子学生の入学促進に向けては、令和6年度の女子入学者数を踏まえ、「女子枠特別入試」の導入について引き続き検討を進めている。また、外国人留学生の受け入れ拡大に向け、日本語能力を要件としない英語のみで受験可能な入試の実施や、留学生向けの募集人員の設定についても検討を行った。 【修士課程】 総合知創出科学専攻（修士課程）では、社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜を設けて入試を実施し、それぞれ1名の入学が確定している。また、同専攻では「高度情報専門門基盤特別プログラム」を修了要件に組み込む設計とし、修士（学術）レベルでの高度情報専門人材の育成体制を整備している。 ≪❷理工学域・自然科学研究科≫ 【学士課程】 学士課程は、令和6年度入試から、女子枠特別入試（定員3名）を導入している。さらなる女子枠の拡大に向けて、募集人員を令和7年度入試より、女子枠特別入試（定員5名）に増員するとともに、学生募集方法を検討しつつ、広報活動も強化する。 【博士前期課程・博士後期課程】 博士前期課程・博士後期課程においては、留学生の確保に向け、DDP・コチュテルを実施しており、令和6年度に最初のコチュテルDDP学生を受け入れている。今後、多くの留学生在が応募しやすいプログラムへの改善並びに新しいプログラム開発の検討を行う。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
石川工業高等専門学校において、令和7年度より電子情報工学科を除く本科4学科で高度情報専門人材を養成するコースを新設し、40名の定員増を行う予定であり、融合学域スマート創成科学類への3年次編入に向けて、先取り履修を行うなど、その接続を促す取り組みを実施する。また、本科電子情報工学科から理工学域電子情報通信学類への3年次編入に向けても、同様に先取り履修等の接続を促す取り組みを実施する。さらに、高専本科のコース新設を基点とした学年進行に伴い、当該コースの学生が専攻科に進学する令和12年度には、高度情報専門人材の養成に向け、当専攻科と本学融合学域スマート創成科学類及び理工学域電子情報通信学類の双方の強み、教育資源を活用した教育内容の高度化を図る連携教育プログラムを開始する。これにより、当連携教育プログラムを修了した学生からの金沢大学大学院への進学も促すとともに、両機関による共同研究のさらなる活性化も目指す。	「❶融合学域・新学術創成研究科」 【学士課程】 融合学域では、他の高等教育機関との連携を強化するため、令和7年1月31日に広報・学生募集委員長らが石川工業高等専門学校を訪問し、融合学域各学類の概要および3年次編入学制度について説明を行うとともに、今後の接続推進に向けた協議を実施した。また、従来の「出願翌年度に編入学する」編入学試験に加え、「出願翌々年度に編入学できる」制度を新たに導入・予告し、特に商船学科卒業者を対象とした柔軟な進学機会の提供を図った。さらに、令和6年度からは、高校生および高等専門学校1～3年生を対象に、科目等履修生として本学の授業科目を履修できる制度を導入した。この制度をさらに発展させ、令和8年度入試からは、当該制度により修得した単位を「KUGS特別選抜」の出願要件として活用できるよう制度設計を行い、令和6年12月にその方針を予告した。これらの取組を通じて、他大学・高等専門学校等との接続性を高め、多様な背景を持つ学生の受け入れを促進する体制を整備している。 「❷理工学域・自然科学研究科」 【学士課程】 編入学促進に向けて、教育の体制、学生の身分、入学前教育、入学定員、入試方法、学費等について、事業採択以降継続的に石川工業高等専門学校と協議を行い、令和6年度に石川工業高等専門学校と連携教育プログラムに関する協定を締結した。これにより、令和7年度から「高等専門学校専攻科との連携教育プログラム特別選抜」を行う。また、富山高等専門学校専攻科と推薦入学に関する協定を締結した。これに加え、石川工業高等専門学校専攻科と福井工業高等専門学校専攻科と既に締結している推薦入学に関する協定について受入学生数の撤廃を行い、協定内容の統一と連携を強化した。更に、優秀な高専生の編入学の促進のために、電子情報通信学類の編入学特別選抜として高専推薦枠を設けた。加えて、石川工業高等専門学校で12月に金沢大学編入学の説明会を行い、約40名が参加した。 また、令和6年度にChang Gung University（Taiwan）のCollege of Intelligent Computingと交流協定を締結し、教育研究の連携を行うこととなった。	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況

大学名	金沢大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

1. 本事業対象となる情報系組織の状況

1-1.博士課程

<合計>

[illegible]

<内訳>

改組組織名	新学術創成研究科総合知創出科学専攻
-------	-------------------

[illegible]

<内訳>

改組組織名	新學術創成研究科総合知創出科学専攻
-------	-------------------

[illegible]

＜内訳＞

改組組織名	融合学域スマート創成科学類
-------	---------------

[illegible]

大学名	金沢大学
-----	------

(2)

改組組織名	理工学域電子情報通信学類
-------	--------------

[illegible]

大学名	金沢大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

3－3.学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,726	1,836	1,836																
		入学者数	人	1,777	1,905	1,900																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	2	2																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,726	1,836	1,836																
		入学者数(B)	人	1,779	1,907	1,900																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.04	1.03																
	収容定員等	収容定員(C)	人	7,393	7,523	7,638																
		編入学定員	人	95	105	235																
		在籍者数(D)	人	7,855	7,998	8,216																
		編入学者数	人	77	70	85																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.06	1.08																

4.外部資金の状況（全学）

年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	8,832,979	14,179,593																	

特記事項

「2－3.学士課程」に関し、融合学域スマート創成科学類においては完成年度前であることから、卒業生はいない。そのため、理工学域電子情報通信学類分のみを計上している。 「2－1.博士課程」 「2－2.修士課程」 「3－1.博士課程」 「3－2.修士課程」 「3－3.学士課程」に関し、その他の学期の入学定員欄は、若干名を指している。 「2－4. 修士課程」に関し、新学術創成研究科総合創出科学は、収容定員の増加の基礎となる専攻であるために、事業対象ではない既存の組織（専攻）の状況を記載している。 「4.外部資金の状況（全学）」については、現在決算作業中であるため、空欄としている。
--